



【2026 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 作業療法学コース】

13	治療・介助の実践を学ぶ：様々な症例に対する関節可動域訓練・筋力増強訓練・移乗動作・更衣動作・喀痰吸引等	演習・実習	行った実技を練習する。	1
14	OSCE	実技	その日に行ったことの振り返り。	1
15	OSCE	実技	その日に行ったことの振り返り。	1
試	定期試験は行わない			

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		60	30	10	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	40	5	0	0	0	45
	思考・推論・創造する力	10	10	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	10	5	0	0	15
	コミュニケーション力	10	0	0	0	0	10
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	0	5	5	0	0	10

評価のポイント			評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
評価方法	行動目標			
試験	①		実技試験は、ある疾患を想定した関節可動域訓練・筋力増強訓練・移乗動作訓練・更衣動作訓練・喀痰吸引などの治療介入を行う。作業療法の基本的な技量および治療の基本的な技量についての習熟度を問う。(60%)	試験実施直後に口頭にてフィードバックを行う。
	②			
	③			
	④	✓		
	⑤	✓		
	⑥			
レポート	①	✓	模擬事例について、作業療法評価の過程を MTDLP でレポートにまとめる。また、支援学校にあける作業療法士のかかわり方をレポートにまとめる。それぞれ、過程やレポートの内容をループリックで評価し、知的スキルの習熟度等について問う。(30%)	レポート提出後に各担当者により実施する。
	②			
	③	✓		
	④			
	⑤	✓		
	⑥			
成果発表	①		福祉機器展に参加し、模擬事例に適した福祉機器の選択を行い、メリット・デメリットについて発表を行い、内容をループリックで評価する。(10%)	発表後担当教員が口頭でフィードバックを行う。
	②	✓		
	③			
	④			
	⑤	✓		
	⑥			
ポートフォリオ	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
その他	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			

備考

他担当教員	志茂 聡、小沢 健一、浅野 克俊、小川 麻里子、渡辺 俊太郎、向山 秀
教員の実務経験	本科目の担当教員は 10 年以上の臨床業務経験がある。

【2026 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 作業療法学コース】

実践的授業の内容	配布資料と併せて臨床における治療で得た知見に基づき作業療法に必要な基本的実技・知識を教授する。
そ の 他	<p>この科目ではレポート課題が提示されるが、生成 AI によるレポートの作成は禁止します。 使用が発覚した場合には単位の認定はできません。</p> <p><b>授業形態：</b>この科目は登校による面接授業で実施する。大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は面接授業の参加を認めない。</p> <p>演習グループは、前期の演習の習熟度によって、授業効果が最適化するようにグループ編成を行う。</p> <p><b>履修に関して：</b>この科目の単位修得が臨床実習Ⅲ（評価実習）の履修要件である。</p>